



新出雲市の飛躍を誓おう

新「出雲市」発足記念式典を開催



7月2日、新「出雲市」発足記念式典を挙行。約1,000人が見守る中、新出雲市の門出を盛大に祝いました。

新市の発展に向け、力強くあいさつする西尾市長（7月2日 出雲市民会館）

3月22日に誕生した新「出雲市」。新たな出発を記念し、7月2日に出雲市民会館で新「出雲市」発足記念式典を行いました。式典では、まず、西尾市長が「21世紀の新出雲市が、西部日本海域の中心都市として羽ばたき、『世界を結ぶ「縁都市」』を目指して、全市民が手と手を携え一丸となって、力強く前進、前進、また前進しようではありませんか」とあいさつしました。

その後、市町村合併の功労者として、合併前の旧2市4町の市長・町長や議長を務めた14人に対し、総務大臣表彰が行われました。また、出雲地区合併協議会委員として、新市誕生に尽力のあった28人に、西尾市長から特別感謝状を贈呈しました。式典には、市と友好交流を深めてきた国内外の都市からも代



式典に先立ってファンファーレを演奏する大社小学校、第一中学校、大社高等学校、出雲フィルハーモニー交響楽団金管セクションの皆さん

表者が参列し、これからの交流を誓い合いました。市長式辞は3ページに掲載しています。また、4ページには同じく7月2日に出雲市駅北周辺で開催した縁結び祭や、式典に先立って行われた前夜祭の様子を紹介しています。

新「出雲市」発足記念式典式辞（抜粋）



出雲市長 西尾理弘

この度の新出雲市誕生は、困難を乗り越え、歴史・産業・文化など発展性に満ちた出色の2市4町の統合に至ったものであり、自らのまちは自らつくるのだという主体的な意欲と方針のもと、15万市民が勝ち取った、出雲の國草創以来の一大金字塔であります。

新「出雲市」はまさに、「むすんでひらく悠久のロマンと夢育む日本のふるさと出雲の國つくり」の大業に立ち上がったところであり、合併直後の10年間で新市建設計画の死命を制する、重要な歴史的瞬間です。全市民が「やるぞ」との決意と情熱で身も心も燃え尽きたらんとしております。

今や、新市建設計画推進本部をはじめ、30を超えるプロジェクトや審議会・検討委員会を立ち上げ、計画実現の大きな第一歩を踏み出したところであります。

中でも、産業振興は新市のあらゆる活動のエネルギーとして最も重要な課題であり、本年度を「21世紀産業都市の創造元年」と位置づけ、産業基盤の整備、産業技術開発の促進、人材確保に積極的に取り組んでまいります。

さらに、産業・文化発展の新たな闘いとして、「21世紀出雲神話観光大国の創造」を目指し、国内外にわたる交流人口一千万人実現を目標に、産業ビジネス、芸術文化振興の諸プロジェクトを推進せんとしております。

そして、陸海空の広域交通網・高速交通網の整備を促進し、「21世紀都市・交流拠点の創造」に積極的に取り組んでまいります。また、地球規模の環境問題は行政・市民・事業者が協働して取り組まなければならない21世紀市民社会の挑戦です。ポイ捨て禁止運動、リサイクルの促進、風力、バイオマス発電など新エネルギーの活用で、「世界最先端の環境先進都市」を目指してまいります。

さらに、すべての市民が健康で文化的な暮らしができるよう、「健康文化都市の創造」を目指してま

いります。

そして、21世紀出雲の発展の源である「人材育成都市の創造」を目指し、子育て支援から、幼児教育、学校教育、生涯教育、科学技術、芸術文化、スポーツ振興など新規施策を大々的に展開してまいります。

他方、国、地方を通じた財政難の中、三位一体改革による地方分権確立の要請を創造的に受け止め、教育をはじめ、諸改革案を全国に向け大胆かつ粘り強く提言するとともに、自らも財政改革に積極的に取り組み、経費の節減はもとより、自ら財源を創り出す努力を払いつつ、新市建設に力いっぱい取り組んでいく覚悟です。

21世紀の新出雲市が、西部日本海域の中心都市として、出雲が動けば島根が動く、島根が羽ばたけば日本が前進し、世界に貢献するとの思いで文字通り「世界を結ぶ「縁都市」」を目指します。

終わりに、ご臨席の皆様には、これまでのご支援・ご激励に改めて深く謝意を表しつつ、今後ともご指導、ご協力をよろしくお願い申しあげる次第であります。

さらに市民の皆様が、ますますの「健康」「活躍」を祈念申し上げ、式辞といたします。



出雲地区合併協議会委員28人に、市長から特別感謝状を贈呈。各選出区分の代表者7人が壇上に並びました



総務大臣表彰を受けた14人の旧2市4町の市長・町長と議長